

ISSN 1881 - 980X

一般社団法人日本科学教育学会
Japan Society for Science Education
発行：中山 迅
事務局：中西印刷株式会社 学会部内
URL：<http://www.jsse.jp>

.....
2017.10.15
NO.234
.....

科学教育研究レター



目次

| | | | |
|------------------------------------|----------|--------------------------------------|----------|
| ■ 理事会だより | 2 | ■ 国際交流委員会だより | 17 |
| 第 275 回理事会報告 (2017.6.17) | | 国際ランチョン・ミーティング開催報告 | |
| 第 276 回理事会報告 (案) (2017.8.29) | | 国際学会開催情報 | |
| 一般社団法人日本科学教育学会第 41 回 定時代議員総会 報告 | | 国際学会参加報告(43) | |
| 合同会議報告 | | 国際学会参加報告(44) | |
| ■ 年会 | 10 | ■ 若手活性化委員会だより | 23 |
| 第 41 回年会開催報告 | | 第 41 回年会における若手活性化委員会 企画報告 | |
| 第 42 回年会開催案内 (第 1 次) | | 日本科学教育学会第 5 回研究会 (若手 活性化委員会主催) 予告 | |
| ■ 支部・研究会だより | 12 | ■ 編集委員会だより | 26 |
| 2017 年度研究会開催のお知らせ | | 2017 年度第 1 回編集委員会報告 | |
| | | ■ 広報委員会からのお知らせ | 27 |

日本科学教育学会第 275 回理事会報告

日 時 2017年6月17日（土）14:00～17:00
会 場 株式会社内田洋行 新川本社 3階 GM1
出席者 会 長 中山 迅, 副会長 吉岡亮衛
理 事 佐伯昭彦, 宮崎樹夫, 坂谷内勝, 松浦拓也, 村山 功,
久保田義彦, 三宅志穂, 鈴木栄幸, 荻原 彰, 縣 秀彦,
山下修一, 隅田 学, 加藤久恵, 大谷 忠, 舟生日出男
監 事 片平克弘, 余田義彦
事務局長 吉川 厚
年 会 林 敏浩
庶務担当幹事 川上 貴

1. 議事要録（案）の承認

○第274回理事会議事録（案）を承認した。

2. 第275回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果

○事務局からの発議により、3月31日までに入会を希望した7名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（4月6日）。

○事務局からの発議により、4月28日までに入会を希望した10名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（5月3日）。

○事務局からの発議により、5月31日までに入会を希望した12名とシニア会員希望した6名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（6月3日）。

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

○事務局より文章受理（刊行物送付を含む）の報告があった。

2) 経理・会員

○2017年度予算案の作成経過について報告があり、2016年度決算の後に2017年度予算案をメール審議で依頼する方針について報告があった。

3) 機関誌編集

○『科学教育研究』の編集状況、投稿及び掲載決定状況、特集号企画等について報告があった。

4) 学会賞

○学会賞の推薦について報告があった。

5) 支部・研究会

○現在までの研究会の開催状況について報告があった。

6) 調査研究・学术交流

○第22回 教科「理科」関連学会協議会(CSERS)シンポジウムの共催等についての報告があった。

7) 国際交流

○第41回年会での国際ランチョン・ミーティング開催についての案内があった。

○ICASEへの年会費支払いが完了した旨の報告があった。

8) 年会企画

○第41回年会（香川大会）の準備状況と年会テーマについて報告があった。

○第42回年会の開催場所と時期等について報告があった。

9) 若手活性化

○第41回年会における若手活性化委員会企画の準備状況について報告があった。

○平成29年度における若手活性化委員会担当の研究会の準備状況について報告があった。

10) 電子化部会

○J-STAGEへの『日本科学教育学会研究会研究報告』（第21巻6号まで）の移行が完了した旨の報告があった。

11) その他

○今後の検討事項として台風等による年会中止に対する対応が挙げられた。

4. 協議事項

1) 退会希望者等について

○退会希望者7名の承認について承認した。

現在会員数1,415名（正会員1,240名，学生会員123名，名誉会員14名，公共会員1名，賛助会員4名，シニア会員33名）（2017年6月7日付）

（前回理事会：会員数1,415名（正会員1,231名，学生会員131名，名誉会員15名，公共会員1名，賛助会員4名，シニア会員33名）（2017年3月13日付））

2) 庶務

○電子会議における採決の方法に関する規定についての提案があり，継続審議とされた。

3) 学会賞

○学会賞受賞候補者の選考結果について下記の通り提案があり承認した.

| | |
|---------|--------------------------|
| 論文賞 | 坂本美紀・山口悦司・西垣順子・益川弘如・稲垣成哲 |
| 科学教育実践賞 | 大橋淳史 |
| 奨励賞 | 高橋 聡 |
| 奨励賞 | 平林真伊 |
| 功労賞 | 山路裕昭 |
| 功労賞 | 松原静朗 |
| 功労賞 | 鳩貝太朗 |
| 功労賞 | 山下 茂 |
| 功労賞 | 大高 泉 |
| 功労賞 | 篠原文陽児 |

4) 支部・研究会

○平成29年度の研究会開催計画（案）について承認した.

○平成29年度支部長及び編集企画委員について承認した.

5. その他

○平成30年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞及び若手科学者賞受賞候補者の推薦についての呼びかけがあり，今年度は見送る旨で承認された.

6. 次回以降の理事会予定

- ・第276回：2017年 8月29日（火）16:30～18:30 場所：サンポート高松
- ・第277回：2017年11月18日（土）14:00～17:00 場所：株式会社内田洋行 新川本社
- ・第278回：2018年 3月17日（土）14:00～17:00 場所：株式会社内田洋行 新川本社
- ・第279回：2018年 6月16日（土）14:00～17:00 場所：株式会社内田洋行 新川本社

日本科学教育学会第 276 回理事会報告（案）

（議事要録承認前．要点のみ参考掲載）

日 時 2017年8月29日（火）16:30～18:05
会 場 サンポート高松（ホール棟6階64会議室）
出席者 会 長 中山 迅，副会長 吉岡亮衛，猿田祐嗣
理 事 佐伯昭彦，宮崎樹夫，坂谷内勝，松浦拓也，村山 功，
久保田義彦，三宅志穂，鈴木栄幸，竹中真希子，山口悦司，
荻原 彰，山下修一，隅田 学，加藤久恵，大谷 忠，
森田裕介，舟生日出男
監 事 片平克弘，余田義彦
事務局長 吉川 厚
年 会 林 敏浩
庶務担当幹事 川上 貴

1. 議事要録（案）の承認

○第 275 回理事会議事録（案）を承認した。

2. 第 276 回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果

○事務局からの発議により，6 月 30 日までに入会を希望した 26 名及びシニア会員 2 名を電子会議により審査した結果，全員の入会が承認された。

○事務局からの発議により，7 月 31 日までに入会を希望した 10 名を電子会議により審査した結果，全員の入会が承認された。

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

○事務局より文章受理（刊行物送付を含む）の報告があった。

2) 機関誌編集

○『科学教育研究』の編集状況，投稿及び掲載決定状況，特集号企画等について報告があった。

○『科学教育研究』の J-Stage 移行について報告があった。

3) 支部・研究会

○平成 29 年度研究会開催計画（案）について報告があった。

○平成 29 年度支部長および編集企画委員について報告があった。

4) 年会企画

○第 41 回香川年会の参加申し込み状況について報告があった。

○平成 30 年 8 月 17 日から 19 日にかけて信州大学（長野市）において，第 42 回年会が開催される旨の報告があった。

5) 若手活性化

○第 41 回年会における若手活性化委員会企画の準備・実施状況について報告があった。

○平成 29 年度における若手活性化委員会担当の研究会の準備状況について報告があった。

6) 電子化部会

○「科学教育研究」(Vol.1～最新号)の J-Stage への移行が完了し，既に公開されている旨の報告があった。

○「科教研報」と「年会論文集」の J-Stage への移行の進捗状況について報告があった。

7) 広報・学会 IT 化委員会

○『科学教育研究レター』の編集・発行日程について報告があった。

8) その他

○第 41 回年会の中でランチョンミーティングが開催される旨の報告があった。

4. 協議事項

1) 代議員選挙及び役員選挙について

○代議員選挙管理委員として，久保田善彦氏，隅田学氏，出口明子氏が指名され，承認された。

○役員選挙管理委員として，山下修一氏，三宅志穂氏，舟生日出男氏が指名され，承認された。

2) 退会希望者等について

○退会希望者 35 名（賛助会員を含む）の承認について承認した。

○除籍対象者 31 名の承認について，1 名を保留として，30 名の除籍について承認した。

現在会員数 1,428 名（正会員 1,237 名，学生会員 133 名，名誉会員 14 名，公共会員 1 名，賛助会員 3 名，シニア会員 40 名）（2017 年 8 月 8 日付）

（前回理事会：会員数 1,415 名（正会員 1,231 名，学生会員 131 名，名誉会員 15 名，公共会員 1 名，賛助会員 4 名，シニア会員 33 名）（2017 年 3 月 13 日付）

3) 広報・学会 IT 化委員会

○広報委員会の委員構成について提案があり，承認した。

4) 支部・研究会

○『科教研報』(Vol.31 まで)の J-Stage 移行に伴う作業とその作業にかかる費用について説明があり，作業の執行と費用の支出について承認された。

5) その他

○第 41 回年会における年会発表賞の投票について呼びかけがあった。

5. 次回以降の理事会予定

- ・第 277 回：2017 年 11 月 18 日（土）14:00～17:00 場所：株式会社内田洋行 新川本社
- ・第 278 回：2018 年 3 月 17 日（土）14:00～17:00 場所：株式会社内田洋行 新川本社
- ・第 279 回：2018 年 6 月 16 日（土）14:00～17:00 場所：株式会社内田洋行 新川本社
- ・第 280 回：2018 年 8 月 17 日（金）16:30～18:00 場所：信州大学教育学部

一般社団法人日本科学教育学会第 41 回定時代議員総会 報告

日 時 2017年8月30 日（水）13:00～14:30

会 場 サンポート高松シンボルタワー ホール棟4階 第1小ホール

次 第

（進行：佐伯昭彦 理事）

1. 開会の辞

（猿田祐嗣 副会長）

2. 第 41 回年会実行委員長挨拶

（林 敏浩 実行委員長）

3. 会長挨拶

（中山 迅 会長）

4. 議長選出

定款第 36 条により，中山迅会長を議長に選出した。

5. 議事録署名人委任

（中山 迅 会長）

議事録署名人を，林 敏浩（香川大学）宮崎樹夫（信州大学），の両会員に委任することを，拍手でもって承認した。

代議員総会出席者 20 名，委任状 12 通で代議員総会成立を確認した。

6. 審議

（議長：中山 迅 会長）

1) 第 1 号議案の提案

（宮崎樹夫・坂谷内勝 理事）

2016 年度事業報告書及び収支決算書の説明と提案が行われ，第 1 号議案は承認された。

2) 監査報告

（余田義彦・片平克弘 監事）

監査の結果，一般社団法人日本科学教育学会のすべての会計処理が適正に行われていたことを確認した旨の報告なされた。

3) 第 2 号議案の提案

（宮崎樹夫・坂谷内勝 理事）

2017 年度事業計画書及び収支予算書（案）の説明と提案が行われ，第 2 号議案は承認された。

7. 議長解任

8. 表彰

1) 学会賞選考委員会での選考経過の報告 (三宅志穂 理事)

学会賞選考委員会での選考経過が報告された。

2) 表彰 (中山 迅 会長)

功劳賞

- ・ 山路裕昭 (長崎大学名誉教授)
- ・ 松原静郎 (桐蔭横浜大学/国立教育政策研究所名誉所員)
- ・ 鳩貝太郎 (国立教育政策研究所名誉所員)
- ・ 山下 茂 (大分大学名誉教授)
- ・ 大高 泉 (筑波大学名誉教授/常盤短期大学)
- ・ 篠原文陽児 (東京学芸大学名誉教授)

奨励賞

- ・ 高橋 聡 (東京理科大学経営学部経営学科)
- ・ 平林真伊 (筑波大学人間学系)

論文賞

- ・ 坂本美紀 (神戸大学), 山口悦司 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科), 西垣順子 (大阪市立大学大学教育研究センター), 益川弘如 (聖心女子大学文学部教育学科), 稲垣成哲 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科)

科学教育実践賞

- ・ 大橋淳史 (愛媛大学教育学部理科教育講座)

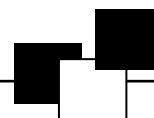
年会発表賞

- ・ 江草遼平 (神戸大学, 日本学術振興会特別研究員), 楠 房子 (多摩美術大学情報デザイン学科), 稲垣成哲 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科)
- ・ 越智拓也 (広島大学大学院), 上田裕太 (吉富町外一市中学校組合立吉富中学校), 磯崎哲夫 (広島大学大学院教育学研究科)
- ・ 田中大樹 (三重大学大学院教育学研究科), 平賀伸夫 (三重大学教育学部)
- ・ 加納 圭 (滋賀大学大学院教育学研究科), 水町衣里 (大阪大学 CO デザインセンター), 塩瀬隆之 (京都大学総合博物館), ヘイチク パヴェル (日本科学未来館), 岡本雅子 (京都大学高等教育研究開発推進センター), 佐々木孝暢 (天津市立小松小学校), 竹内慎一 (NHK エデュケーショナル)
- ・ 高橋 聡 (東京理科大学), 高橋 B. 徹 (東京理科大学), 吉川 厚 (東京工業大学)

9. 次年度第 42 回年会実行委員長挨拶 (宮崎樹夫 実行委員長)

10. 閉会の辞 (猿田祐嗣 副会長)

合同会議 報告



日 時 2017年8月29日(火) 18:30～20:30

会 場 サンポート高松G会場 (63会議室)

2017年度顧問・理事・支部長・代議員合同会議は、会長、副会長、監事、年会実行委員の他、顧問（1名）、支部長（2名）、代議員（8名）、理事（17名）、編集委員長、年会企画委員長が出席して開催された。

まず、中山迅会長の挨拶と学会の近況報告があり、宮崎理事（庶務）、坂谷内理事（経理・会員）から、事業報告、事業計画、収支決算・予算等について説明があり、参会者からこれらについての質問や意見が出された。その後、参会者各自の自己紹介に続いて、林年会実行委員長の挨拶があった。

第 41 回年会開催報告

日本科学教育学会第 41 回年会は、2017 年 8 月 29 日（火）～31 日（木）の 3 日間の日程で、サンポート高松において開催されました。

年会テーマは「科学的に考える資質・能力を育成するアクティブ・ラーニング」で、期間中には活発な議論が繰り広げられ、学会会員の皆様のご発表とご協力を持ちまして、充実した年会を開催することができました。年会実行委員会としてお礼申し上げます。

本年会では、招待講演 1 件、シンポジウム 1 件、課題研究発表 15 課題 79 件、一般研究発表 114 件、インタラクティブセッション 19 件、国際ランチョン・ミーティング、チュートリアル&フィールドワーク（若手活性化委員会企画）、総会・表彰式、懇親会、各種委員会などのプログラムが執り行われました。学会賞を受賞された皆様方におかれましては、誠におめでとうございました。懇親会には約 130 名のご参加をいただきました。サヌカイト演奏から始まった讃岐国分寺太鼓保存会の迫力あるパフォーマンスを楽しんでいただき、さらには讃岐うどんをご賞味いただきながら、会員同士のつながりを深める社交の場をご提供できていたようでしたら嬉しい限りです。また、後述します企業展示と連動したロトイベントもいかがでしたでしょうか。賞品を獲得されました皆様、おめでとうございました。これまでとは少し毛色が変わった懇親会を企画させていただきましたが、楽しんでいただけましたでしょうか。

今回は企業展示にも力をいれました。初日と 2 日目に受付のあるサンポート高松第 1 小ホールロビーで企業 9 社による展示ブースを設置しました。また、特別枠として香川大学総合情報センターの展示ブースも出ささせていただきました。皆様に企業展示に足を運んでもらうために、懇親会のロトイベントと連動した企業スタンプラリーも実施しました。今回はいろいろ試行錯誤的なチャレンジをさせていただきましたが企業展示もその一つでした。企業展示も楽しんでいただけたのであればうれしい限りです。また、企業展示にご参加いただいた企業の方々にはこの場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、第 41 回年会は、年会登録参加者、学生スタッフ、企業展示の方々を合わせると約 400 名の多くの参加者を得て盛況の内に終えることができました。最後になりましたが、本年会の開催にあたり、後援をいただいた文部科学省、香川大学、プログラムの作成および運営の指導をくださった年会企画委員会の皆様に、厚くお礼申し上げます。また、高松にご参集くださり、活発な議論で実りある大会にさせていただいた参加者の皆様にも深くお礼申し上げます。さらに、公益財団法人高松観光コンベンション・ビューロー、香川県 MICE 誘致推進協議会の 2 団体様からは年会開催に当たって各種補助金や広報のご支援をいただきました。年会にご協力を賜りましたことに、心よりお礼申し上げます。特に、高松観光コンベンション・ビューロー様は年会の準備から実施まで幅広く人的支援もいただき感謝申し上げます。そして、最後になりましたが、実行委員会スタッフと学生スタッフの皆様に、心より感謝いたします。「四国が一つ」になった年会だったと思います。本当にありがとうございました。

日本科学教育学会第 41 回年会実行委員会 委員長 林 敏浩

第 42 回年会開催案内（第 1 次）

1. 日程：2018 年 8 月 17 日（金）～19 日（日）（3 日間を予定）

2. 会場：信州大学 長野（教育）キャンパス

（〒380-8544 長野県長野市西長野 6-1）

<http://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/maps/map01.html>

※同じ長野市内に、長野（工学）キャンパスもありますので、ご注意ください。

※信州大学の本部は、松本キャンパス（松本市）にあります。

※懇親会（18 日（土）夕方）は、長野市内のホテル等を予定しています。

3. 連絡先：日本科学教育学会第 42 回年会実行委員会

E-mail : jsseam42 [at mark] gmail.com

4. 第 42 回年会実行委員会

委員長 宮崎樹夫（信州大学）

副委員長 三崎 隆（信州大学）

委員 市川公明（信州大学）、小松孝太郎（信州大学）、茅野公穂（信州大学）、
東原義訓（信州大学）、村松浩幸（信州大学）、谷塚光典（信州大学）、
油井幸樹（信州大学）

5. 年会企画委員会

委員長 松寄昭雄（埼玉大学）

副委員長 瀬戸崎典夫（長崎大学）、日野圭子（宇都宮大学）

担当理事 大谷 忠（東京学芸大学）、加藤久恵（兵庫教育大学）

幹事 向 平和（愛媛大学）

委員 泉 直志（鳥取大学）、大野美喜子（産業技術総合研究所）、
川上 貴（宇都宮大学）、北島茂樹（明星大学）、
木村優里（NPO 法人東京学芸大こども未来研究所）、
小泉健輔（高崎健康福祉大学）、島田和典（東京学芸大学）、
高井吾朗（愛知教育大学）、高藤清美（筑波学院大学）、
高橋一将（北海道教育大学）、高橋 聡（東京理科大学）、
竹中真希子（大分大学）、野添 生（宮崎大学）、
服部裕一郎（高知大学）、林 敏浩（香川大学）、谷塚光典（信州大学）

2017 年度研究会開催のお知らせ

平成 29 年度研究会の開催計画を以下に掲載します。

| 開催支部／委員会 | 開催日 | 発表申込み締切日 | 会場 |
|----------|------------------|------------------|------------|
| 北海道支部 | 2017 年 11 月 11 日 | 2017 年 10 月 14 日 | 北海道教育大学釧路校 |
| 九州沖縄支部 | 2017 年 11 月 18 日 | 2017 年 10 月 10 日 | 熊本大学 |
| 東北支部 | 2017 年 12 月 2 日 | 2017 年 10 月 24 日 | 宮城学院女子大学 |
| 北陸甲信越支部 | 2017 年 12 月 3 日 | 2017 年 10 月 24 日 | 金沢大学 |
| 若手活性化委員会 | 2017 年 12 月 16 日 | 2017 年 11 月 7 日 | 宇都宮大学 |
| 南関東支部 | 2018 年 3 月 25 日 | 2018 年 2 月 13 日 | 東京学芸大学 |
| 北関東支部 | 2018 年 4 月 21 日 | 2018 年 3 月 13 日 | 茨城大学 |
| 四国支部 | 2018 年 5 月 26 日 | 2018 年 4 月 17 日 | 愛媛大学 |
| 中国支部 | 2018 年 6 月 2 日 | 2018 年 4 月 24 日 | 島根大学 |
| 東海支部 | 2018 年 6 月 23 日 | 2018 年 5 月 15 日 | 三重大学 |

下記 5 件の研究会の開催案内を掲載します。

- (1) 第 1 回 北海道支部開催
- (2) 第 2 回 九州沖縄支部開催
- (3) 第 3 回 東北支部開催
- (4) 第 4 回 北陸甲信越開催
- (5) 第 5 回 若手活性化委員会開催



研究会に関する情報は学会 Web ページに掲載しますので、ご覧ください。

(1) 平成 29 年度第 1 回日本科学教育学会研究会（北海道支部開催）

[テーマ] 未来志向の科学教育

[主催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日時] 平成 29 年 11 月 11 日（土） 9：30～12：30

[会場] 北海道教育大学釧路校 講義棟 303 教室

〒085-8580 北海道釧路市城山 1 丁目 1 5 番 5 5 号

[対象] 会員，教員，学生，社会人

[参加] 参加費は無料です。

会員，非会員にかかわらず，どなたでも参加できます。

[申込み先] 2017 年度第 1 回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：森健一郎

〒085-8580 北海道釧路市城山 1 丁目 1 5 番 5 5 号

Tel (0154-44-3349) ※Fax なし

E-mail : mori.kenichiro(atmark)k.hokkyodai.ac.jp (森健一郎)

[発表申込・原稿締切]

発表者は本学会員のみです。連名の発表の場合には、連名者のうち少なくとも1人が会員である必要があります。発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していれば、会員として扱うこととします。

発表を希望される方は、氏名、所属、発表題目、E-mail アドレス、電話番号、連絡先住所、使用機器を明記した E-mail を企画編集委員：森健一郎（北海道教育大学釧路校）までお送りください。

発表申込〆切は、平成 29 年 10 月 14 日（土）です。*締め切りました

発表原稿様式等については、発表申込があった方に E-mail にてお知らせいたします。原稿送付〆切は、平成 29 年 10 月 23 日（月）です。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会 北海道支部長 久保良宏（北海道教育大学旭川校）

(2) 平成 29 年度第 2 回日本科学教育学会研究会（九州沖縄支部開催）

[テーマ] 地域から発信する科学教育研究と実践

[主催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日時] 平成 29 年 11 月 18 日（土） 10：00～16：00

[会場] 熊本大学教育学部

〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-40-1

[対象] 会員、教員、学生、社会人

[参加] 参加費は無料です。

会員、非会員にかかわらず、どなたでも参加できます。

[申込み先] 2017 年度第 2 回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：渡邊重義

〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-40-1

Tel/Fax：096-342-2547

E-mail：shige[atmark]educ.kumamoto-u.ac.jp（渡邊重義）

[発表申込・原稿締切]

発表者は本学会員のみです。連名の発表の場合には、連名者のうち少なくとも1人が会員である必要があります。発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していれば、会員として扱うこととします。

発表を希望される方は、氏名、所属、発表題目、E-mail アドレス、電話番号、連絡先住所、使用機器を明記した E-mail を企画編集委員：渡邊重義（熊本大学）までお送りください。

発表申込締切は、平成 29 年 10 月 10 日（火）です。*締め切りました

発表原稿様式等については、発表申込みがあった方に E-mail にてお知らせいたします。原稿提出締切は、平成 29 年 10 月 30 日（月）です。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会 九州・沖縄支部長 内ノ倉真吾（鹿児島大学）

(3) 平成 29 年度第 3 回日本科学教育学会研究会（東北支部開催）

[テーマ] 深い学びの実現をめざす科学教育

[主催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[後援] 宮城県教育委員会（申請予定）、仙台市教育委員会（申請予定）

[日時] 平成 29 年 12 月 2 日（土）10：00～17：00

[会場] 宮城学院女子大学

〒981-8557 仙台市青葉区桜ヶ丘 9-1-1

[参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。
参加費は無料です。

[発表申込] 発表者は本学会員のみです。連名の発表の場合には、連名者のうち少なくとも 1 人が会員である必要があります。発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していれば、会員として扱うこととします。発表を希望される会員は、氏名、所属、発表題目、E-mail アドレス、電話番号、連絡先住所、使用機器を明記した E-mail を 2017 年度第 3 回日本科学教育学会研究会、実行委員長：板橋夏樹（宮城学院女子大学）までお送りください。

メール送付先 E-mail : itahashi(atmark)mgu.ac.jp（板橋夏樹）

発表申込締切は、平成 29 年 10 月 24 日（火）です。

[原稿提出] 発表原稿様式等については、発表申込があった方に E-mail にてお知らせいたします。
原稿提出締切は、平成 29 年 11 月 13 日（月）です。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会 東北支部長 中村 好則（岩手大学）

(4) 平成 29 年度第 4 回日本科学教育学会研究会（北陸甲信越支部開催）

[テーマ] 深い学びを図る科学教育

[主催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日時] 平成 29 年 12 月 3 日（日）10:00～16:00

[会場] 金沢大学人間社会第 2 講義棟 2 階 209 講義室

〒920-1192 石川県金沢市角間町

[対象] 会員、教員、学生、社会人

[参加] 参加費は無料です。

会員、非会員にかかわらず、どなたでも参加できます。

[申込み先] 2017 年度第 4 回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：松原道男

〒920-1192 石川県金沢市角間町 金沢大学人間社会学域学校教育学類

Tel 076-264-5487

E-mail : msom(atmark)ed.kanazawa-u.ac.jp

[発表申込・原稿締切]

発表者は本学会員のみです。連名の発表の場合には、連名者のうち少なくとも 1 人が会員である必要があります。発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していれば、会員として扱

うこととします。

発表を希望される方は、氏名、所属、発表題目、E-mail アドレス、電話番号、連絡先住所、使用機器を明記した E-mail を 企画編集委員：松原道男（金沢大 学）までお送りください。

発表申込〆切は、平成 29 年 10 月 24 日（火）です。

発表原稿様式等については、発表申込があった方に E-mail にてお知らせいたします。原稿送付〆切は、平成 29 年 11 月 13 日（月）です。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会 北陸甲信越支部長 水落芳明（上越教育大学）

(5) 平成 29 年度第 5 回日本科学教育学会研究会（若手活性化委員会開催）

[テーマ] 次世代の科学教育研究

[主催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日時] 平成 29 年 12 月 16 日（土）13:00～17:00（12:30 受付開始）

[会場] 宇都宮大学（峰キャンパス）

〒321-8505 宇都宮市峰町 350

○交通案内 <http://www.utsunomiya-u.ac.jp/map/access.php>

[対象] 会員、教員、学生、社会人

[参加（聴講）] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。参加費は無料です。

[発表] 発表資格があるのは、本学会正会員および学生会員です。単名または連名発表者に 1 名以上の会員を含む必要があります。発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していれば、会員として扱うこととします。

今回は全てポスター発表となります。当日のポスターサイズは発表申込があった方にメールにてお知らせいたします。

ポスター発表に先立って、発表内容を 30 秒間で簡潔にご説明いただきます。そのためのプレゼンテーションスライド 1 枚をポスターとは別に作成いただきます。

[発表申込] 発表を希望される方は、次の URL の Web フォームよりお申込をお願いいたします。

<https://goo.gl/forms/DSVc7kOXexZKnxNc2>

ご不明な点につきましては、以下の問い合わせ先までメールにてご連絡ください。

問い合わせ先：h-unzai[atmark]nittai.ac.jp

日本科学教育学会若手活性化委員会・幹事 雲財寛（日本体育大学）

[発表申込締切] 平成 29 年 11 月 7 日（火）です。

[原稿提出] 発表原稿様式、送付方法等については、発表申込みがあった方にメールにてお知らせいたします。

[原稿送付締切] 平成 29 年 11 月 27 日（月）です。

[表彰] 当日の発表の中から、優秀な研究発表に対して「ベストプレゼンテーション賞」を授与します。（ベストプレゼンテーション賞の対象となるのは、研究会当日にプレゼンテーションを行

い, かつ研究報告の第一著者で, 平成 29 年 4 月 1 日時点で 40 歳未満の正会員および学生会員です.)

[その他] 本研究会で研究発表を行うことで, 学会機関誌『科学教育研究』の特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究」に論文を投稿する資格が得られます. 特集の投稿募集の詳細につきましては, 学会 Web サイトや本レターの編集委員会だよりをご確認ください.

多数の方々の申込をお待ちしております.

日本科学教育学会 若手活性化委員会 委員長 出口明子 (宇都宮大学)

以上

国際ランチョン・ミーティング開催報告

日本科学教育学会第41回年会3日目の8月31日(木)の昼食時間に、国際交流委員会主催の「国際ランチョン・ミーティング」が開催され、約50名の方にご参加頂き、例年に引き続き盛況のうちに会を終えることができました。教室に入りきれない方が多数出てしまい、申し訳ありませんでした。次回はさらに大きい会場で開催したいと思います。

このミーティングは、国際学会等の情報提供と参加者同士の交流を通して、国際学会や国際交流への参加を支援することを目的として開催しました。企画・運営を担当したのは、雲財寛(日本体育大学)、越智拓也(広島大学大学院)、河原太郎(国立教育政策研究所)、高橋一将(北海道教育大学旭川校)、山田真子(長崎大学)です。

今回のランチョン・ミーティングでは、東アジア科学教育学会(EASE)主催のサマースクールに参加した越智拓也さん(広島大学大学院)からの参加報告に加え、熊野善介先生(静岡大学)の共同研究者であり、Association for Science Teacher Education(ASTE)の学会長を務めるGillian Roehrig先生(ミネソタ大学)を特別ゲストとしてお招きしました。Roehrig先生からは、ASTEと2018年1月に開催されるASTEの国際学会についての説明と紹介がありました。ご協力いただいた、熊野善介先生(静岡大学)に心より感謝申し上げます。

今年度は、特別ゲストをお招きし、司会進行も一部日英両語で行ったため、より国際的な雰囲気を提供することができました。アンケート(回答数12)では、「直接海外の研究者の話を聞くことができたのは良かった」、「若い研究者とつながることができてよかった」、「大学院進学や海外での発表も視野に入れたい」など、例年よりもさらに国際交流の重要性を感じた、という回答を得ることができました。次回に向けて、「海外の教育研究の動向を情報交換したい」、「サマースクールについて知りたい」、「国際学会参加のチュートリアルをしてほしい」といった要望の声を踏まえ、さらに充実した企画になるよう、委員会として継続して実施していきたいと思っております。

最後に、ご協力頂いた年会実行委員会、年会企画委員会、広報委員会の方々、当日ご協力下さった皆様、参加者の方々に感謝申し上げます。

来年度もさらに充実した企画内容で開催していきたいと思っておりますので、皆様是非ご参加ください。



(神戸大学・吉田実久)

国際学会開催情報

今後、下記の国際学会が開催予定である。詳細については、各ホームページをご参照いただきたい。

2017年

International Conference on Educational Technologies

開催地：Sydney, Australia

期 間：2017年12月11日-13日

<http://icedutech-conf.org>

The Asian Technology Conference in Mathematics (ATCM)

開催地：Chungli, Taiwan

期 間：2017年12月15日-19日

<http://atcm.mathandtech.org/>

2018年

The Association for Science Education Annual Conference (ASE)

開催地：University of Liverpool, UK

期 間：2018年1月3日-6日

<http://www.ase.org.uk/conferences/annual-conference/>

Association for Science Teacher Education (ASTE)

開催地：Baltimore, MD, USA

期 間：2018年1月3日-6日

<https://theaste.org/meetings/2018-international-conference/>

The National Association for Research in Science Teaching Annual International Conference (NARST)

開催地：Atlanta, USA

期 間：2018年3月10日-13日

<https://www.narst.org/annualconference/2018conference.cfm>

National Science Teachers Association (NSTA)

開催地：Atlanta, USA

期 間：2018年3月15日-18日

<https://www.nsta.org/conferences/national.aspx>

Association for the Advancement of Computing in Education

開催地：Washington, DC, USA

期 間：2018年3月26日-30日

<https://www.aace.org/>

Society for Information Technology and Teacher Education (SITE)

開催地：Washington, D.C., USA

期 間：2018年3月26日-30日

<http://site.aace.org/conf/>

The International Technology and Engineering Educators Association Annual Conference (ITEEA)

開催地：Atlanta, Georgia, USA

期 間：2018年4月12日-14日

https://www.iteea.org/Activities/Conference/ITEEA_Conference_2018.aspx

American Educational Research Association Annual Meeting (AERA)

開催地：New York, USA

期 間：2018年4月13日-17日

<http://www.aera.net/Events-Meetings/Annual-Meeting>

Global Conference on Learning and Technology (Global Learn)

開催地：Orland, Florida, USA

期 間：2018年4月17日-18日

<https://www.aace.org/conf/glearn/>

National Council of Teachers of Mathematics Research Conference (NCTM)

開催地：Washington, D.C., USA

期 間：2018年4月23日-25日

<http://www.nctm.org/Conferences-and-Professional-Development/Research-Conference/>

National Council of Teachers of Mathematics Annual Meeting & Exposition (NCTM)

開催地：Washington, D.C., USA

期 間：2018年4月25日-28日

<http://www.nctm.org/Conferences-and-Professional-Development/Annual-Meeting-and-Exposition/>

ICMI-East Asia Regional Conference on Mathematics Education (EARCOME)

開催地：Taipei, Taiwan

期 間：2018年5月7日-11日

<http://earcome8.math.ntnu.edu.tw>

International Science Education Conference (ISEC)

開催地 : Barcelona, Spain

期 間 : 2018年6月3日-7日

<https://clute-sci.com>

International Conference on Knowledge Based and Intelligent Information and Engineering System (KES)

開催地 : Gold Coast, Australia

期 間 : 2018年6月20日-23日

<http://www.kesinternational.org/>

World Conference on Educational Media and Technology (EdMedia)

開催地 : Amsterdam, Netherlands

期 間 : 2018年6月25日-29日

<https://www.aace.org/conf/edmedia/>

International Group for the Psychology of Mathematics Education (PME)

開催地 : Umeå, Sweden

期 間 : 2018年7月3日-8日

<http://www.igpme.org/index.php/annual-conference>

International Conference on Education and Information Systems, Technologies and Applications (EISTA)

開催地 : Orlando, Florida, USA

期 間 : 2018年7月8日-11日

International Congress on Advanced Applied Informatics

開催地 : 鳥取, 日本

期 間 : 2018年7月 (日にち未定)

<http://www.iaiai.org/conference/aai2018/siss-2018/>

The Symposium of International Organization for Science and Technology Education (IOSTE)

開催地 : Malmo, Sweden

期 間 : 2018年8月13日-17日

<http://ioste2018.weebly.com/>

European Science Education Research Association (ESERA)

開催地 : Bologna, Italy

期 間 : 2019年8月26日-30日

<https://www.esera.org/news/esera-announcements/653-esera-conference-2019>

International Conference of East-Asian Association for Science Education (EASE)

開催地：Hualien, Taiwan

期 間：2018年11月23日-25日

<http://theease.org/conference2018.php>

国際学会参加報告 (43)

- 2017 the East-Asian Association for Science Education (EASE) Summer School -

中国陝西省西安市にある, Shaanxi Normal University (陝西師範大学) において, 2017年7月8日から7月15日にかけて, East-Asian Association for Science Education (EASE)による東アジア諸国の科学教育の博士課程に所属する学生を対象としたサマースクールが開催された。

このサマースクールの目的は博士課程学生への, お互いの研究経験の共有と, 将来の共同研究開発のための価値ある機会の提供である。今回の参加国/地域は, 日本, 韓国, 中国, 台湾, 香港で, 参加者は, ワークショップを指導する教授とコーチ役の教授が各国/各地域から各一人ずつ, 学生は日本から5人, 韓国から4人, 中国から7人, 香港から1人, 台湾から6人の計33人(留学生も含む)であった。学生たちは, 期間中5つのワークショップグループに分かれて活動をした。活動は4つで, 一つ目は, 指導教授からのレクチャーで, 期間中5タイトル行われ, 二つ目は, 3日目の午後に行われた会場校である陝西師範大学の教育技術研究施設の訪問である。三つ目は, グループワークショップで学生一人ひとりが自分自身の博士論文に関して, 30分のプレゼンテーションを行い, 他の学生が質問をしたり, 提案をしたりした後で, 教授たちのアドバイスやコメントが入るといったものであった。30分のプレゼンテーションとその後の質疑応答, コメント, 感想, 指導で, 一人あたり1時間10分かけ, 各グループ4回ないし5回行われた。四つ目は, 同じくグループワークショップで, 将来の共同研究に向けての研究プロポーザルを作るというものであった。まず学生は, 各自興味あるテーマ, 教育的問題などを出し合いそれぞれ予備調査をし, 検討してテーマを決めた。最終日にグループごとの発表会が予定されていたので, それに向けて20分のプレゼンテーションを作った。この作業により, 具体的に研究のデザインや組み立て, データの取り方, 研究の進め方など具体的にお互いの体験を共有することができた。研究のバックグラウンドが違う, また所属する国/地域の違う学生たちがお互いに意見を出し合いながら作業を進めることで, 共同研究においては, デザインをより明確にすることの大切さが理解できたように思う。また, 他のグループがどんな研究をどのように組み立てようとしているのかということも, 大変興味があり参考になった。

今回のサマースクールに参加して, 科学教育の博士課程で研究をしているといっても, 対話や共同作業を通して, 各国/各地域の学生との研究領域の違い, おかれている教育の状況の違いなどが見えてきたこと, 各自の研究に向ける情熱などが感じられたことが大きな成果といえるだろう。また, 将来における各国/各地域との研究交流についても, 積極的に夢を語ることができ, 研究の広がりが見えてきたので, 将来の交流が大変楽しみになった。



(静岡大学創造科学技術大学院・坂田尚子)

国際学会参加報告 (44) - European Science Education Research Association 2017 (ESERA) -

European Science Education Research Association 2017 国際会議がアイルランド・ダブリンにおいて開催されました。期間は8月21日～25日の5日間です。18のストランズにおよぶ、幅広い視点と内容から科学教育に関する興味深い発表とディスカッションが繰り広げられました。日本からは28名の発表がありました。

ESERAは2年ごとに開催され、私の参加は5回目(10年目!)となりました。参加をはじめた当初は自分の発表順がくると頭の中が真っ白になり、何をしゃべっているのかわからなくなるほどパニックになったのを覚えています。ただ、それも想定のうちなので、シナリオづくりと練習はしっかりしており、なんとか乗り切っていました。今は、当時に比べて準備時間がとれなくなっていることにもどかしさを感じつつ、若干太くなった心で乗り切れるようになりました。

今回のESERAでは日本の学生の方の発表もこれまでになくたくさんありました。今後、科学教育の研究が成長し、発展していく原動力に出会えた気がします。国際学会は研究の糧を得ることと経験を積める貴重なチャンスであり、これからもチャレンジを続けていきたいです。



発表の様子



学会会場の Dublin City University

(神戸女学院大学人間科学部・三宅志穂)

第 41 回年会における若手活性化委員会企画 報告

第 41 回年会において、若手活性化委員会主催によるチュートリアル、フィールドワーク、スタートパーティーを開催しました。

チュートリアルは、編集委員会の協賛により、学会誌論文の執筆・投稿・査読に関する内容が実現しました。前半・後半の 2 パートに分かれており、前半では『科学教育研究』の概要として、投稿の意義、査読の手順、査読の基準などについて、編集委員会の村山功先生（静岡大学）にレクチャーしていただきました。論文投稿の基本的な流れから、査読者の正直な気持ちまで、様々な側面からお話をお聞きすることができました。さらに、中山迅先生（宮崎大学）や吉川厚先生（東京工業大学）からも論文執筆に関する具体的なアドバイスをいただくことができました。そして、前半の締めくくりとして、若手活性化委員会委員長の出口明子先生（宇都宮大学）より、若手研究者の論文投稿を促進する「若手特集」に関する説明がありました。

チュートリアル後半では、『科学教育研究』に掲載された論文を教材として、福田博人先生（岡山理科大学）と吉田実久先生（神戸大学）に司会をしていただき、よりよい投稿論文を執筆するためのポイントや採録を実現するためのポイントなどについて、理解を深めるワークショップを行いました。また、ワークショップの教材を提供していただいた泉直志先生（鳥取大学）にも参加していただき、論文を修正していく手続きや留意点などについて、生の声を聞くことができました。論文を投稿したことがない方でも、論文投稿の具体的なイメージをつかむことができたのではないのでしょうか。そして、後半の最後は、チュートリアルの締めくくりとして久保田善彦先生（宇都宮大学）に、『科学教育研究』第 26 巻第 2 号に掲載された「初めて論文を書く人のために」を紹介していただきました。実用的なアドバイスがたくさん記載されており、「初めて論文を書く人」はまさしく必見の内容となっております。最終的な参加者は 47 名にものぼり、会場に人が溢れるほどの盛会となりました。ご登壇いただいた先生方、誠にありがとうございました。

フィールドワークは 35 名の皆様に参加していただきました。このフィールドワークでは、コンベンションビュウロの皆様にお力添えいただき、情報通信交流館「e-とびあ・かがわ」と、讃岐国領主・生駒家、高松藩主・松平家の居城だった「高松城跡・玉藻公園」を訪問しました。e-とびあ・かがわは、遊びながら自由に最先端の情報通信技術を体験できる施設となっており、参加者の皆様は目を輝かせながら最先端の技術に触れていました。また、高松城跡・玉藻公園でのフィールドワークでは、観光ボランティアガイド協会の方々にご案内していただき、玉藻公園をガイドつきで散策することができました。巧みなガイドによって、高松の歴史の中にある科学を発見した方も多いことでしょう。また、観光ボランティアガイド協会会長のご厚意により、通常では入場することが難しい建物にも入ることができました。観光ボランティア協会の方々、誠にありがとうございました。



チュートリアル



フィールドワーク

毎年恒例のスタートパーティーでは、45名の皆様に参加していただきました。今回は、瀬戸内の鮮魚料理と讃岐名物骨付鳥が自慢の「神童ろ（わらじろ）」の大部屋を貸し切ることができました。座敷だったおかげもあり、参加者の皆様は自由に移動して、色々な層の先生方との交流を深めていました。

企画は以上となりますが、裏の企画として今回は「第1回フォト選手権@高松」を実施しました。この企画は「若手」「科学教育」「高松（香川）」のいずれか1つをテーマにして、学会中で撮影したベストショットを競う企画です。全部で13枚のエントリーがあり、第1回フォト選手権の栄えある1位に輝いたのは、エントリーNo. 4「未来の科学教育を考える」でした。高松城跡・玉藻公園内の風情ある空間をうまく利用した素晴らしい写真でした。投稿者の山根悠平（日本体育大学）さん、おめでとうございます。なお、その他の写真も後述の「若手活性化委員会 Facebook ページ」にて閲覧できますので、ぜひ一度ご覧下さい。

そして、今回の運営ボランティアは過去最大の14名でした。ボランティアの皆様のおかげで円滑に運営することができました。本当にありがとうございました。また、前回の研究会で運営ボランティアだった方も多く参加しており、若手ネットワークの広がりや深まりを確認することができました。このつながりを大切にして、今後の研究生生活の糧にさせていただければ、若手活性化委員会としてこれほど嬉しいことはありません。

最後になりますが、最新の若手活性化委員会の情報は、若手活性化委員会 Facebook ページ (<https://www.facebook.com/jssewakate/>) にて公開しております。どうぞご覧になっていただき、今後の研究会などに足を運んでいただくきっかけとなれば幸いです。

(雲財寛：日本体育大学)

日本科学教育学会第5回研究会（若手活性化委員会主催） 予告

平成29年12月16日（土）に、若手活性化委員会主催による日本科学教育学会第5回研究会が宇都宮大学峰キャンパスで開催されます。ポスター発表による研究発表に加え、主に若手研究者を対象とした『科学教育研究』への投稿論文執筆ワークショップを企画しています。概要は以下の通りです。

<ワークショップ>

若手活性化委員会では現在、本学会の若手研究者による学術論文の公表支援に力を入れています。その一環として、2017年8月に高松で開催された第41回年会において、編集委員会協賛による『科学教育研究』の概要解説などを行うチュートリアルを開催しました。12月の研究会ではその後続企画として、研究会発表（研究会研究報告）の原稿を『科学教育研究』の投稿論文にブラッシュアップする

にはどうすればよいか、『科学教育研究』の査読の観点に基づいて検討するグループワークショップを開催します。

なお、本研究会での研究発表は『科学教育研究』の特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究」の投稿募集と連動しています。本特集に投稿を検討されている方は、是非このワークショップにもご参加ください。

<研究発表申込の募集>

研究発表はすべて、ポスター形式で行います。多くの皆様の発表申込をお待ちしております。なお、本研究会で研究発表を行うことで、『科学教育研究』の特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究」に論文を投稿する資格が得られます。

本研究会当日の発表の中から、優秀な研究発表に対しては「ベストプレゼンテーション賞」を授与します（ただし、「ベストプレゼンテーション賞」の対象となるのは、研究会当日にプレゼンテーションを行い、かつ研究報告の第一著者で、平成29年4月1日時点で40歳未満の正会員および学生会員です）。

<運営ボランティアの募集>

研究会当日の運営を支援してくださるボランティアを今回も募集します。業務終了後にはボランティア活動参加証明書を若手活性化委員会委員長名で授与いたします。大きなことは無理でも少しだけなら、と考える方も大歓迎です。無理のない範囲で作業に従事していただくつもりですのでご安心ください。他大学の学生や若手研究者と知り合うよい機会ですので、ふるってご応募ください。

研究発表申込の募集、運営ボランティアの募集、および、『科学教育研究』の特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究」の詳細については、本レターの「支部・研究会だより」や学会 Web サイトをご確認ください。上記の他にも楽しい企画（懇親会、お土産選手権、フォト選手権など）を計画しております。各種企画の詳細の情報は若手活性化委員会 Facebook ページやメーリングリストで随時公開していきます。どうぞご期待ください。

冬の宇都宮で次世代の科学教育を語り合しましょう。皆様のご発表、ご参加をお待ちしています。

○発表申し込みについて

発表を希望される方は、次の URL の Web フォームよりお申込をお願いいたします。発表申込締め切りは、平成29年11月7日（火）です。

- ・発表・参加申込 URL : <https://goo.gl/forms/DSVc7kOXexZKnxNc2>

ご不明な点につきましては、以下の問い合わせ先までメールにてご連絡ください。

- ・問い合わせ先：日本科学教育学会若手活性化委員会・幹事 雲財寛(日本体育大学)

[h-unzai\[atmark\]nittai.ac.jp](mailto:h-unzai[atmark]nittai.ac.jp)

Facebook ページやメーリングリストの登録は、随時、受け付けています。ぜひご登録ください。

○若手活性化委員会 Facebook

<https://www.facebook.com/jssewakate/>

○JSSE 若手研究者メーリングリスト登録 URL

<https://goo.gl/tClQb4>

(出口明子：宇都宮大学)

2017年度第1回編集委員会報告

2017年8月29日(火)12:30~13:30, 2017年度第1回編集委員会がサンポート高松において開催された。

まず、「科学教育研究」の編集状況について、村山編集理事担当より、以下の通りの報告があった。

1. 新規投稿論文(2017.6.1~2017.7.31): 8編(内訳: 和文7編, 英文1編)
2. 査読中論文(2017.7.31現在): 18編(内訳: 査読者選定中: 3編, 査読中(1回目): 6編, 改訂稿待ち: 2編, 査読中(2回目): 5編, 編集委員による総合判定中(2回目): 2編)
3. 掲載決定論文(2017.6.1~2017.7.31現在): 6編(内訳: 研究論文5編, 資料1編(通算合計41-3: 10編, 41-4: 1編))

次に、平成29年度特集「グローバル化する社会における科学教育」の進捗状況と、「科学教育研究」のCiNiiからJ-Stageへの移行がほぼ完了したことが、村山編集理事担当より報告された。

また、従来の特集とは別に若手会員を対象とした特集を立ち上げることにについて、若手の規程についてはこの特集を継続する場合に見直すことを確認して、了承された。

新投稿査読システムによる編集作業の進め方の変更について、久保田編集理事担当から説明があった。

次回、2017年度第1回編集理事会は、2017年11月18日(土)、11:00~14:00、場所は内田洋行新川第2オフィスを予定している。

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況

(2017年7月31日現在)

| | 新規投稿論文数(編) | | 審査中(編) | | 掲載決定論文数(掲載号) | | 招待論文数(掲載号) | | 掲載不可論文数 | |
|-----------|------------|----|--------|----|--------------|---------|------------|----|---------|----|
| | 和文 | 英文 | 和文 | 英文 | 和文 | 英文 | 和文 | 英文 | 掲載不可 | 辞退 |
| 2016年 8月 | 4 | 0 | 22 | 0 | 0(40-3) | 0(40-3) | 0 | | 3 | 0 |
| | | | | | 2(40-4) | 0(40-4) | 0 | | | |
| 2016年 9月 | 19 | 0 | 41 | 0 | 0(40-3) | 0(40-3) | 0 | | 0 | 0 |
| | | | | | 0(40-4) | 0(40-4) | 0 | | | |
| 2016年 10月 | 6 | 0 | 40 | 0 | 3(40-4) | 0(40-4) | 0 | | 3 | 0 |
| | | | | | 1(41-2) | 0(41-2) | 0 | | | |
| 2016年 11月 | 4 | 0 | 40 | 0 | 2(41-1) | 0(41-1) | 0 | | 2 | 0 |
| | | | | | 0(41-2) | 0(41-2) | 0 | | | |
| 2016年 12月 | 3 | 0 | 34 | 0 | 4(41-1) | 0(41-1) | 0 | | 4 | 0 |
| | | | | | 1(41-2) | 0(41-2) | 0 | | | |
| 2017年 1月 | 6 | 0 | 34 | 0 | 0(41-1) | 0(41-1) | 0 | | 4 | 0 |
| | | | | | 2(41-2) | 0(41-2) | 0 | | | |
| 2017年 2月 | 5 | 0 | 30 | 0 | 0(41-1) | 0(41-1) | 5(41-1) | | 3 | 1 |
| | | | | | 5(41-2) | 0(41-2) | 0 | | | |
| 2017年 3月 | 9 | 0 | 27 | 0 | 5(41-2) | 0(41-2) | 0 | | 6 | 1 |
| | | | | | 0(41-3) | 0(41-3) | 0 | | | |
| 2017年 4月 | 8 | 1 | 27 | 1 | 2(41-2) | 0(41-2) | 1(41-2) | | 5 | 0 |
| | | | | | 1(41-3) | 0(41-3) | 0 | | | |
| 2017年 5月 | 4 | 1 | 22 | 1 | 2(41-2) | 0(41-2) | 0 | | 7 | 0 |
| | | | | | 4(41-3) | 0(41-3) | 0 | | | |
| 2017年 6月 | 4 | 0 | 18 | 1 | 4(41-3) | 0(41-3) | 0 | | 4 | 0 |
| | | | | | 0(41-4) | 0(41-4) | 0 | | | |
| 2017年 7月 | 3 | 1 | 16 | 2 | 1(41-3) | 0(41-3) | 0 | | 3 | 0 |
| | | | | | 1(41-4) | 0(41-4) | 0 | | | |

招待論文については、新規投稿数、審査中論文数に加えておりません

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 234 号をお届けします。一般社団法人日本科学教育学会の広報活動についてお気づきの点などがございましたら、学会 Web サイトにある「お問い合わせ」をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事： 森田裕介（早稲田大） 舟生日出男（創価大）
委員： 高橋 B. 徹（東京理科大） 村山 功（静岡大） 三宅志穂（神戸女学院大）
鈴木栄幸（茨城大学） 荻原 彰（三重大） 大鷲竜午（千葉大）
向 平和（愛媛大学） 辻 宏子（明治学院大）
幹 事： 辻山洋介（千葉大） 石崎友規（常磐大）

科学教育研究レター編集 日本科学教育学会広報委員会

一般社団法人日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□ 事務局 中西印刷（株） 学会部 内

TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : [jsse\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

□ 編集事務局（論文投稿・査読編集）

TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : [jsse-hen\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse-hen[at mark]nacos.com)

中西印刷（株） 学会部 内

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座：00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会